

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区

六甲部 部長 卓話 1

例会について

ワイズメンズクラブは月2回の例会を開催しているところが、多い。ところで、ワイズというものは、知識として知っているだけではダメであって、いろいろな体験の積み重ねによって、初めてワイズというものは身についていくものなのです。

例をだすと、スイスの片田舎で、老婆がザルの中に羊の毛を入れて、それを小川の流れて浸して洗っていました。そこへ牧師さんが通りかかりました。

「おばあさん、あなたは毎週教会にきて私の話を聞いているから、さぞかし物知りになったらうね」「いや、牧師さん、聞いてもすぐに忘れてしまいますから、何も覚えていませんよ。でも、私はそれでいいと思います。牧師さん、このザルの中を見てください。ザルの中には、どんどん水が入ってきますが、すぐザルの外へ流れ去ります。しかし、ザルの中の羊の毛はこんなに綺麗になっているではありませんか。私も牧師さんの話を聞いては忘れ、聞いては忘れてしまいますが、それで私の心も少しは綺麗になっていると思います。」と。

この話は何を意味するのかと言いますと、聞いては忘れ、聞いては忘れながら、水で現れるザルの中の羊の毛のように自分自身が磨かれていくということの意味しているのです。

したがって、私たちは忘れることを恐れてはいけません。できるだけたくさんの方のメンバーの、あるいはゲストの話聞き、そして聞いては忘れ、次第に自分自身が磨かれ、ワイズダムが身についていくのです。

そのためには、例会に出てこいというのです。これが寄付団体であれば、例会に出てくる必要はありません。極端な言い方をすれば、寄付さえしておれば、例会に出席しなくてもよいのです。しかし、ワイズメンズクラブは寄付団体ではありません。

ゆえに、ワイズメンズクラブは必ず例会に出席して、お互いに心を磨きあう、これがワイズメンズクラブの基本的な考えです。

それはなぜかと言うと、ワイズメンズクラブがYMCAを通して、あるいはイエス・キリストの教えを通しての倫理運動だからです。世のため人のための運動を提唱していくためには、まずワイズメン自身の心を磨かなければ、ワイズメン自身の倫理を高めなければ、世の中にワイズダムを提唱することはできないということです。

したがって、例会に出席せよ、というのです。

毎例会に、ワイズメンが出席して、お互いに心を磨きあって「奉仕の心」を授かるのです。そのワイズメンが一步例会の外へ出ると、そこはすべて「奉仕の実践」の場であり、ワイズメンたるものは、自然に世のため人のために実践していくであろうと期待されているのです。

もうひとつ例をあげると。商業の街大阪は、ご存知のように「水の都」と呼ばれています。

そこには、浪速の八百八橋と言われるくらいに、たくさんの橋が架かっています。実を言うとあの橋は、お上によって架けられたものは1つもないのです。すべて大阪商人が自分たちの地域社会は、自分たちで作ろうという考えの下に、架けていったものなのです。

したがって、渡辺橋というのは渡辺さんが架けた橋だろうし、淀屋橋というのは、今でも淀屋橋の近くにある淀屋さんが架けたのかもしれない。肥後橋は、熊本出身の人が架けたものと思われます。このようにして、橋の名は、皆自分の名か自分にゆかりのある名前をつけていったのです。

ところがこの中に、ただ一つ「心齋橋」という名の橋があります。なぜこのような名前を付けたのかというと、江戸時代に、ある人が「懐徳堂」という論語塾を作りました。大阪商人たちは毎晩仕事を終えて、その論語塾に通い、孔子の教えを学んだのです。実はこのことが、大阪商人の商業道徳の基本になっていると言われていています。

ところで、孔子が弟子に諭した言葉に、「仁の道は、貧富に関わりなく存在する。先ず心を洗え」というのがあります。大阪商人がこの言葉に感動して、心を洗う、心を齋(つつ)しむ橋、と書いて「心齋橋」と名付けたのです。

要するに、大阪商人が懐徳堂で心を磨いた結果、その心が地域奉仕として現れ、地域社会に橋を架けていったのです。このことは実践の前にまず心を磨くことの重要性を物語っていると言えます。

そして、卓話を聞き、異業種の良質なメンバーやゲストとの接触、YMCA との交流を通じて、人生を学ぶのです。学んだことは忘れてもよい、しかしその体験を積むことによって初めて、ワイズダムが身についていくのです。一挙手一投足がワイズになっていくのです。したがって、ワイズメンズの奉仕の実践は、先ず例会出席に始まるのです。

ゆえに、クラブに入会しただけでは、必ずしもワイズメンになったとは言えない、ワイズの中で、いろいろな体験を積むことによって、ワイズ的な考え方が身に付き、はじめてその人はワイズメンになることが出来るのです。

このコロナ災禍によって様々な例会の在り方が変わろうとしています、基本的な例会の重要さは不変だと考えます。

ワイズメンズクラブ国際協会 西日本区
六甲部 部長 安行英文